

# 花卉老化の調節—花が萎れるしくみ—

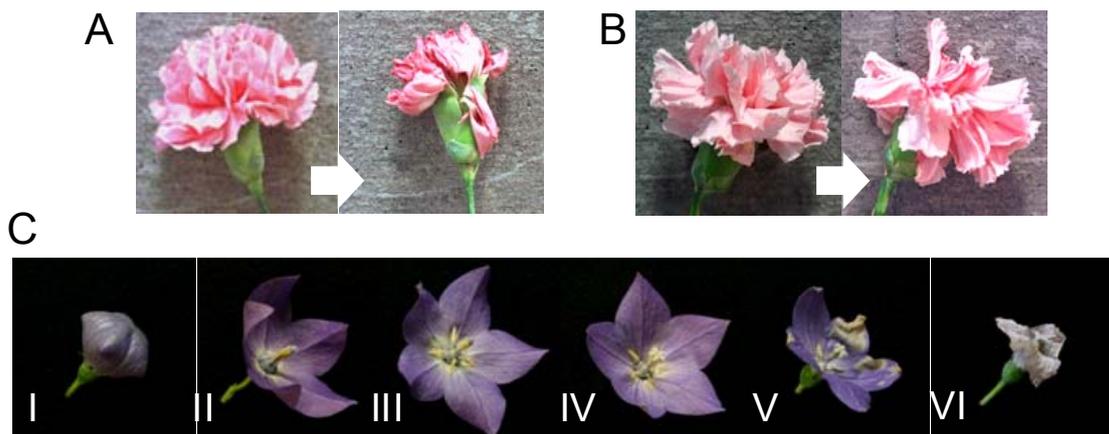
小杉祐介

農学部准教授 博士（農学）

専門分野 園芸利用学



花の萎れ（花卉の老化）は、園芸植物の花持ち形質に直接影響する生理過程の1つといえる。多くの植物種で花卉老化の誘導にはエチレンが主導的な役割を果たしている。こうした植物では、エチレンの生合成や作用の抑制をターゲットとした交配・遺伝子組換えによって、一定の花持ち形質を付与できることが明らかにされつつある。同時に、それまでエチレンで誘導される老化の影に隠れていた別の老化現象が観察されるようになった。こうした老化現象はエチレン以外の様々な要因の影響を受けるものと思われる。花卉老化の進行が明瞭なカーネーションやキキョウを用い、エチレン誘導型・非誘導型の花卉老化現象を、関連する遺伝子の機能と発現調節の解析によって特徴づけることで、花の萎れ機構解明と有効な鮮度保持技術に貢献できればと考えている。



A : カーネーションで通常見られるエチレン誘導型老化（萎凋）、B : エチレン低生産性形質転換体で見られるエチレン非誘導型老化（萎縮）、C : キキョウの花の floral stage